

『失恋延長戦』

山本 幸久／著 祥伝社（2010年）

高校生の米村真弓子は放送部に所属している。同じ放送部の大河原健児に「おれ、米村って、声はいいと思うよ。」と、言われて以来、真弓子は大河原くんのことが気になりだした。

真弓子の高校時代から大学時代までの恋模様を、ぜひ読んでみてください。真弓子の全力の片思いに気分が高揚したり、逆に苦しくなったりします。



『ハッピーノート』

草野 たき／著 福音館書店（2005年）

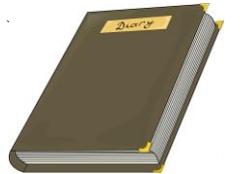
聡子は小学校6年生だ。塾の帰りみち、聡子はいつもミスタードーナツで復習してから家に帰る。同じ塾の霧島くんといっしょに復習だ。聡子はこの時間がとても楽しい。だけど、塾では霧島くんとはしゃべれない。聡子といっしょにいることを友達にばれるのが霧島くんにとってはずかしいことなのかな。



『For You』

五十嵐 貴久／著 祥伝社（2008年）

叔母の冬子が亡くなった。朝美の母がわりでもあり、姉がわりでもあった。現実を受け入れないまま、朝美は叔母の遺品整理をはじめます。すると、1冊の日記帳がでてきた。そこには叔母の一途な恋が記されていた。これほどまでに、生涯変わらぬ愛を貫けるのか。その目で確かめてみてください。



『リセット』

北村 薫／著 新潮社（2001年）

運命の人って本当に現れるものなのか。この世の生が終わっても生まれ変わって、また出会えるような運命の人が。生まれ変わってもまた一緒にいたいと思える人に出会えるのは、なんて素敵なことなのだろう。

この本はそんな素敵なことがおこる、ちょっと不思議なお話です。



『クラバート』

オトフリート・プロイスラー／著
中村 浩三／訳 偕成社（1980年）

少年クラバートは、荒地の水車場の見習いになり、親方から魔法をならうことになった。しかし、そんなに簡単に魔法を教えてくれるわけではなく、奴隷のようにこき使われる日々が続いた。3年後、自由と、少女の愛を勝ち取るために、クラバートは親方に生死をかけた勝負を挑む。



『昨日は彼女も恋してた』 『明日も彼女は恋をする』

入間 人間／著
アスキー・メディアワークス（2011年）

小さな離島に住む僕。車いすに乗る少女、マチ。僕とマチは不仲だ。こんなふたりが自称・天才科学者の松平さんの手伝いでタイムマシンに乗ることになった。どうせ失敗するだろうとたかをくくっていたら、向こうから自分の足で全力で駆ける「小さなマチ」がやってきた。どうやら10年前にタイムスリップしているらしい。もしかしたら僕たちはやり直せるのかもしれない。『明日も彼女は恋をする』と上下巻構成。